

2013東北九州班

九大熱研

医2 池田隆史

看1 小林千賀子

看1 高張謙介

医1 松隈倫子

はじめに

イントロ

池田

被災地での活動

小林

九州での活動

高張

まとめ

松隈

宮城県南三陸町でボランティア

漂流物を拾うための草刈り



宮城県南三陸町でボランティア

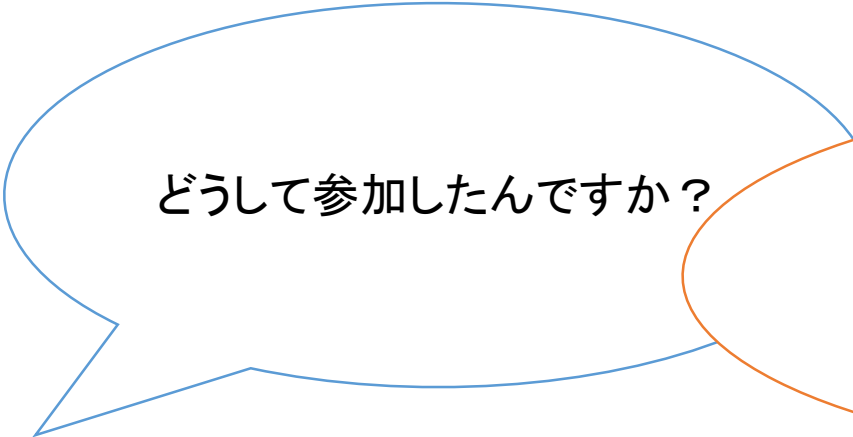
漂流物を拾うための草刈り

関東からのバスツアー

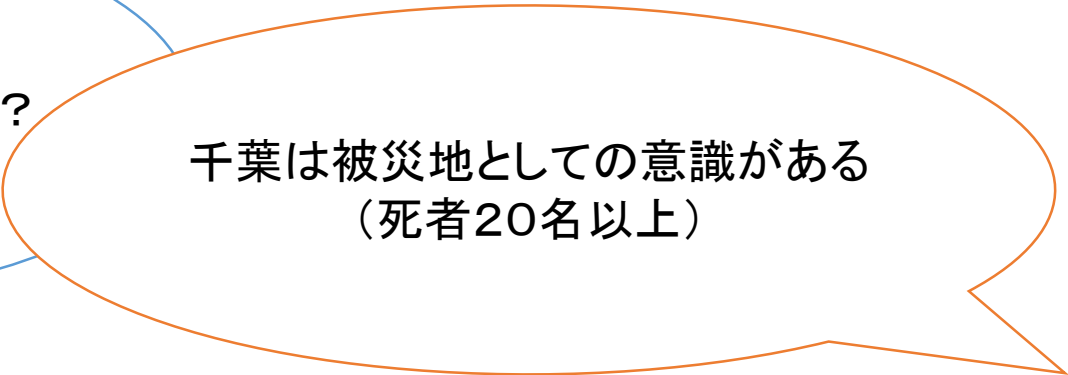
社会人の週末のボランティア

参加者の想い

関東の社会人たちなりの取り組みをしていた



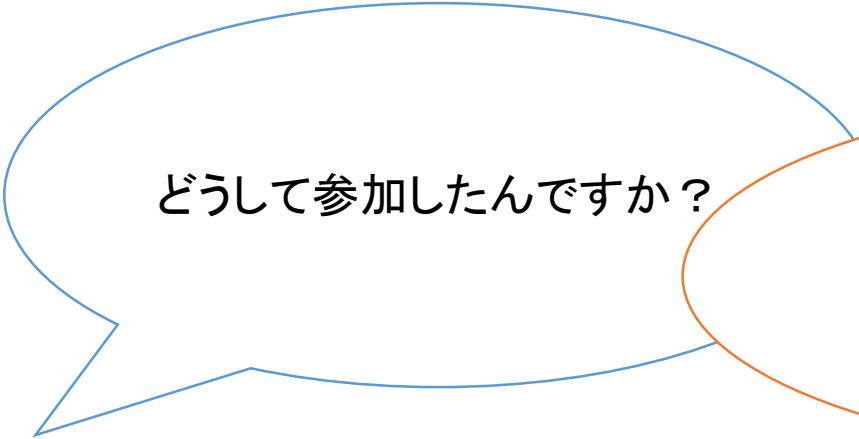
どうして参加したんですか？



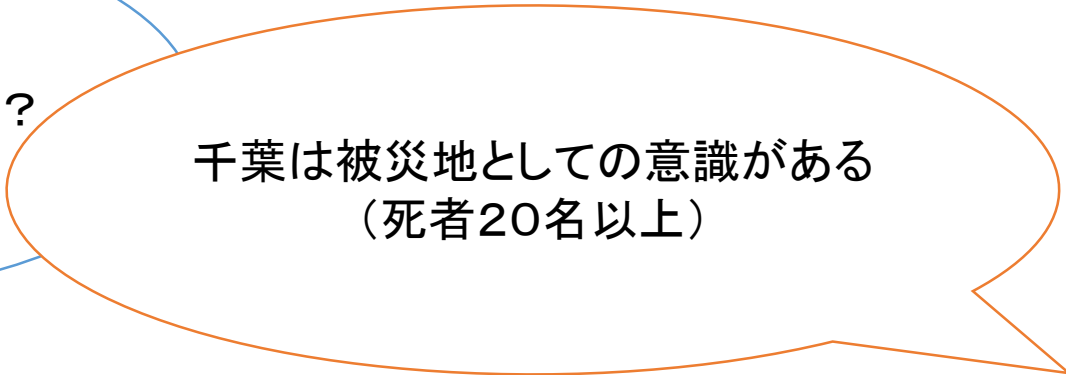
千葉は被災地としての意識がある
(死者20名以上)

参加者の想い

関東の社会人たちなりの取り組みをしていた



どうして参加したんですか？



千葉は被災地としての意識がある
(死者20名以上)



自分たちなりに？

生活を変えられた人々

実際に接してみて、その問題を理解したい

被災地でのこころのケア

- こころへの影響？こころのケア？

広域避難者の支援

- 身近にいるらしいが、よく知らない

活動の目的

- ①被災地内外の**現状を理解**する
- ②自分たちに**できること**を考える
- ③**支援のあり方**についても考える



活動内容①-被災地での活動

8/19~25福島県相馬広域こころのケアセンターなごみ訪問

8/23会津医療センター丹羽先生と面談

8/25ビーチクリーニング



07 福島県



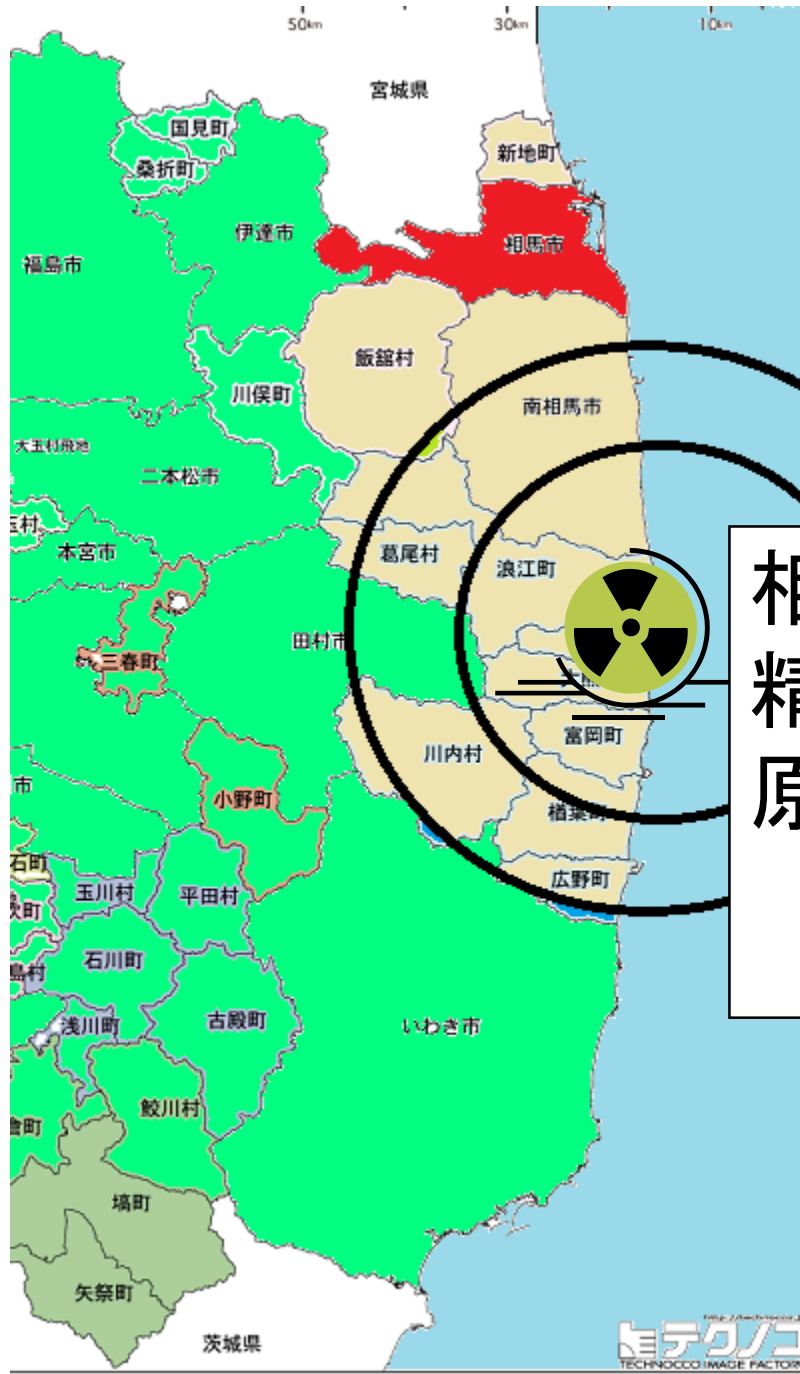
相馬野馬追

Photo by (c)Copro [<http://www.copro.net/freephoto/>]



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用した。（承認番号 平22業使、第632号）

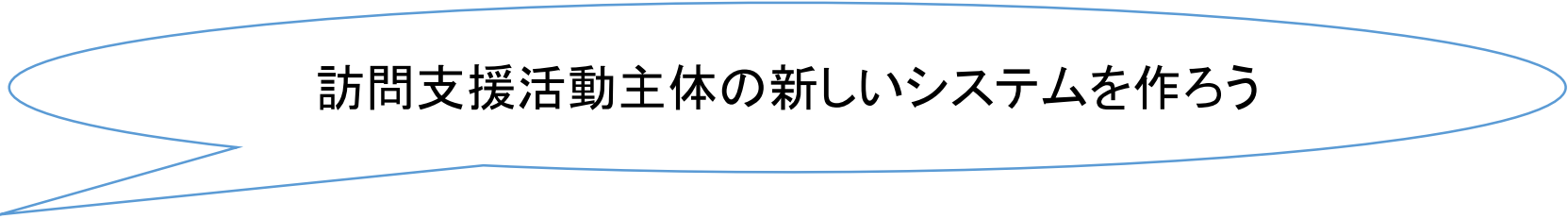
病院機能への影響



相双区の
精神科5病院すべて
原発から30km圏内
⇒閉鎖

相双区の精神科医療保健福祉

- ①スタッフ不足によりこれ以上の病棟確保は望めない
- ②震災後の地域精神保健の活動は必要



訪問支援活動主体の新しいシステムを作ろう

NPO法人相双区にあたらしい精神科医療保健福祉をつくる会が、
2012年1月から

相馬広域こころのケアセンターなごみを拠点に活動

活動内容②-被災地外での活動

- 九州福岡県福岡市

- 9/21 10/19 11/14

東日本大震災被災者支援ふくおか市民ネットワーク
(市民ネット)

の活動「Mama's cafeに参加」



イントロ

池田

被災地での活動

小林

九州での活動

高張

まとめ

松隈

被災地での活動

小林千賀子

相馬広域こころのケアセンターなごみ



相馬広域こころのケアセンターなごみ

震災対応型アウトリーチ推進事業

+

方部こころのケアセンター事業

職員（12名）

看護師、保健師、作業療法士、臨床心理士、
精神保健福祉士

なごみの活動

・アウトリーチ



アウトリーチ（訪問支援事業）

未治療者

治療中断者

引きこもりの
者

長期入院後に
退院した者

入退院を繰り返す者

震災によって
症状が出た者

アウトリーチ（訪問支援事業）

- 治療につなげる
 - 未治療/治療中断
- 治療の継続補助
 - 服薬チェック/通院支援
- 生活支援
 - 衣食住の支援



チームカンファレンス



なごみの活動

- ・アウトリーチ

- ・サロン活動

- ・こころの検診、研修会など



1日の流れ

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	朝のチームカンファ 9:00~9:45					サロン活動 (午前)	オンコール体制
	アウトリーチ						
	データ整理 事業準備	サロン活動、戸別訪問					
午後	アウトリーチ カンファ	サロン活動 戸別訪問					
	運営会議	アウトリーチ					
	夕のチームカンファ 16:00~17:00						
	17:15~翌日8:30までオンコール体制						

現地での活動

丹羽先生との対談



草むしり



家のお掃除

ビーチクリーニング



現地での活動



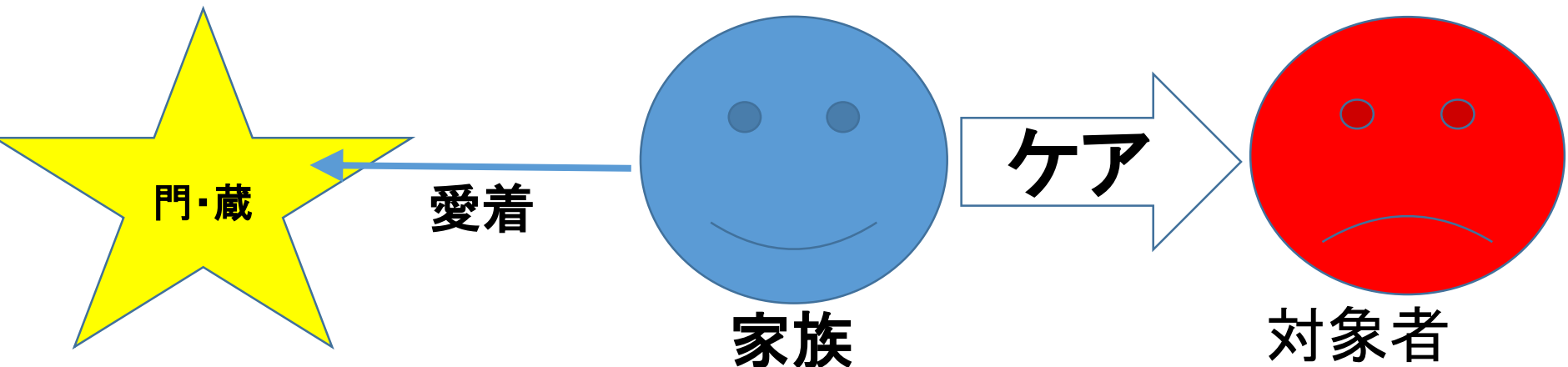
草むしり

草むしり

家族に対するケアの事例

背景

- A市の代々伝わる武家屋敷で、立派な建物、庭
 - 家を継いでいる家族の大事なもの
- 長年、うつを抱えた対象者を家族が支えてきた



草むしり-地震の影響-

代々伝わる蔵や門が壊れた

⇒家族への精神的なショック・喪失感



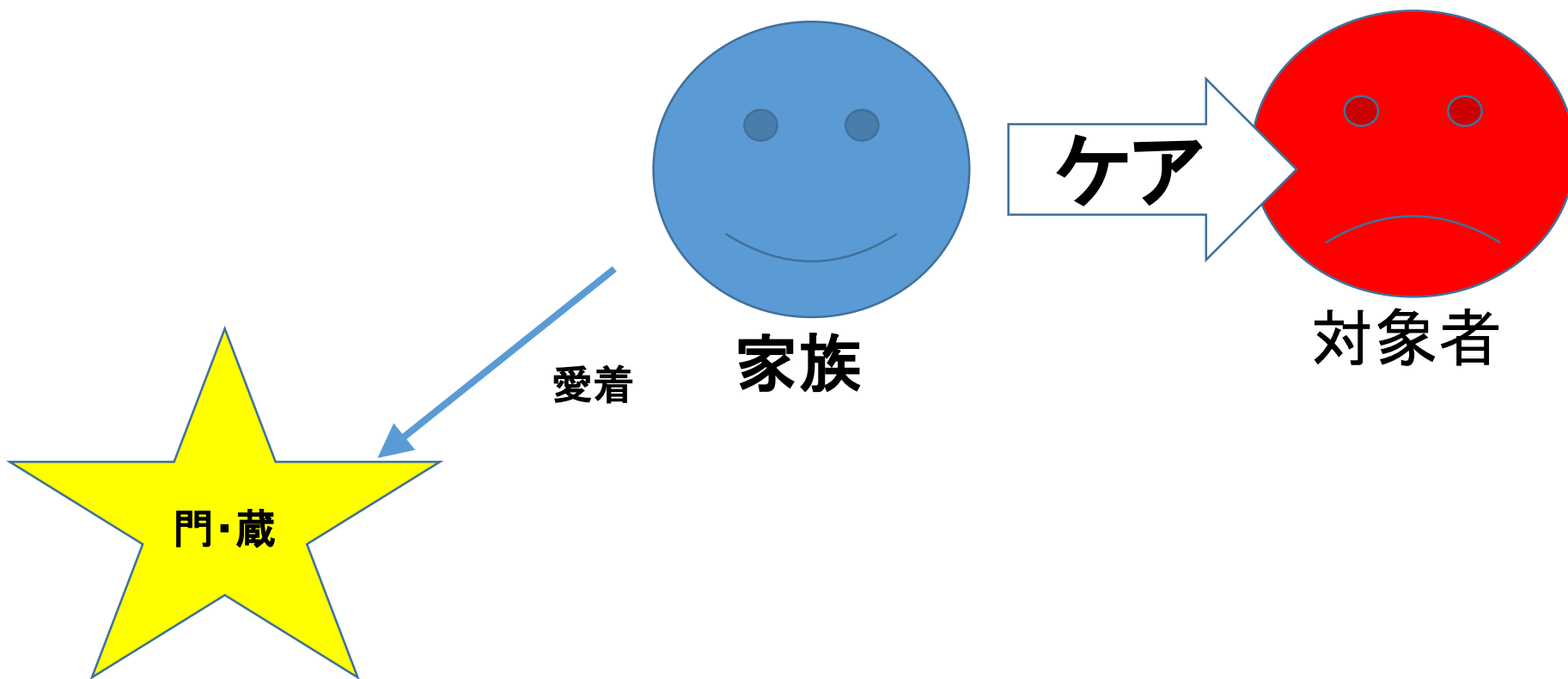
草むしり-地震の影響-

以前は月1で庭の手入れをしていたのに

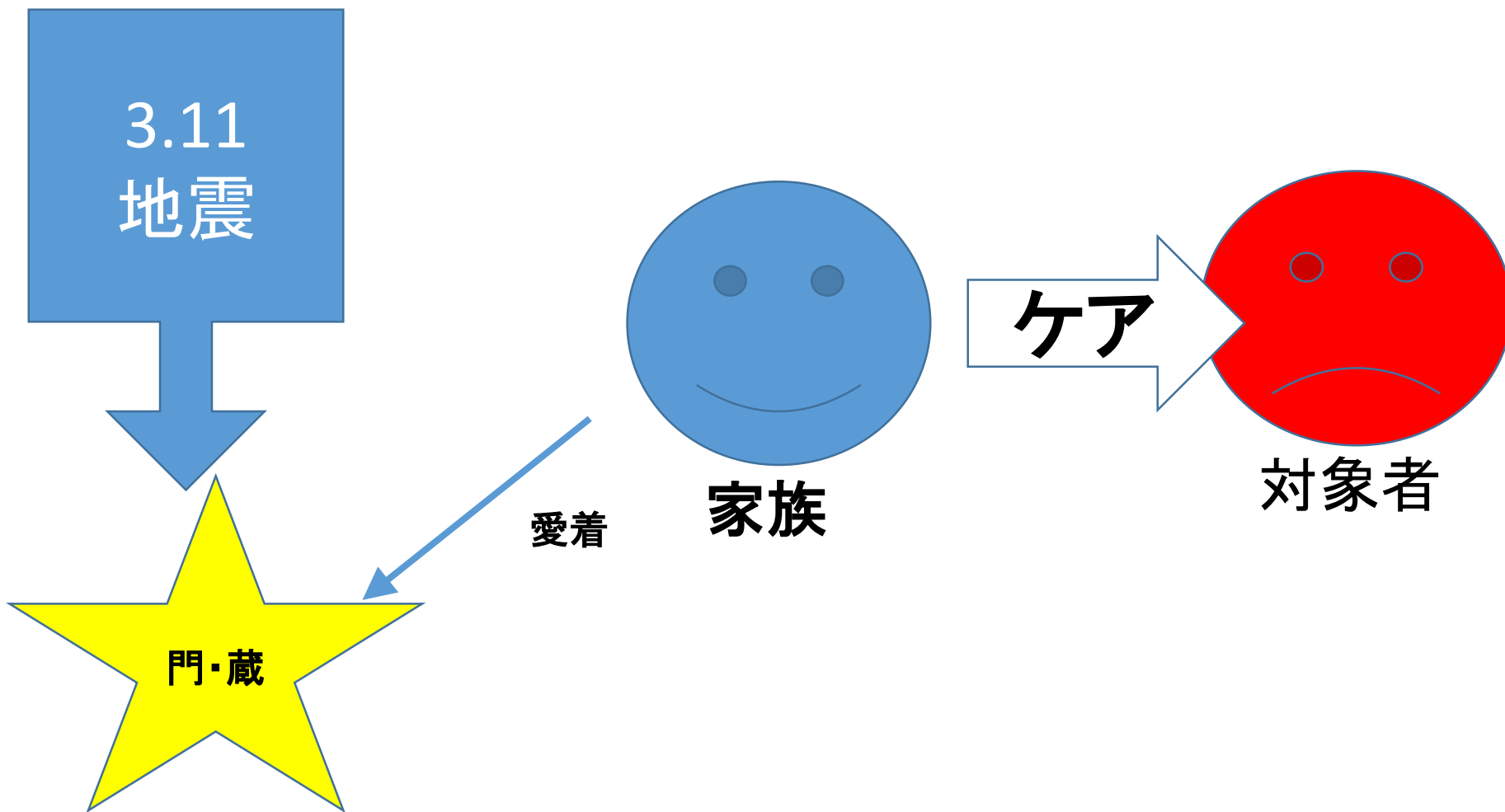


家族「一気にやる気がなくなった」

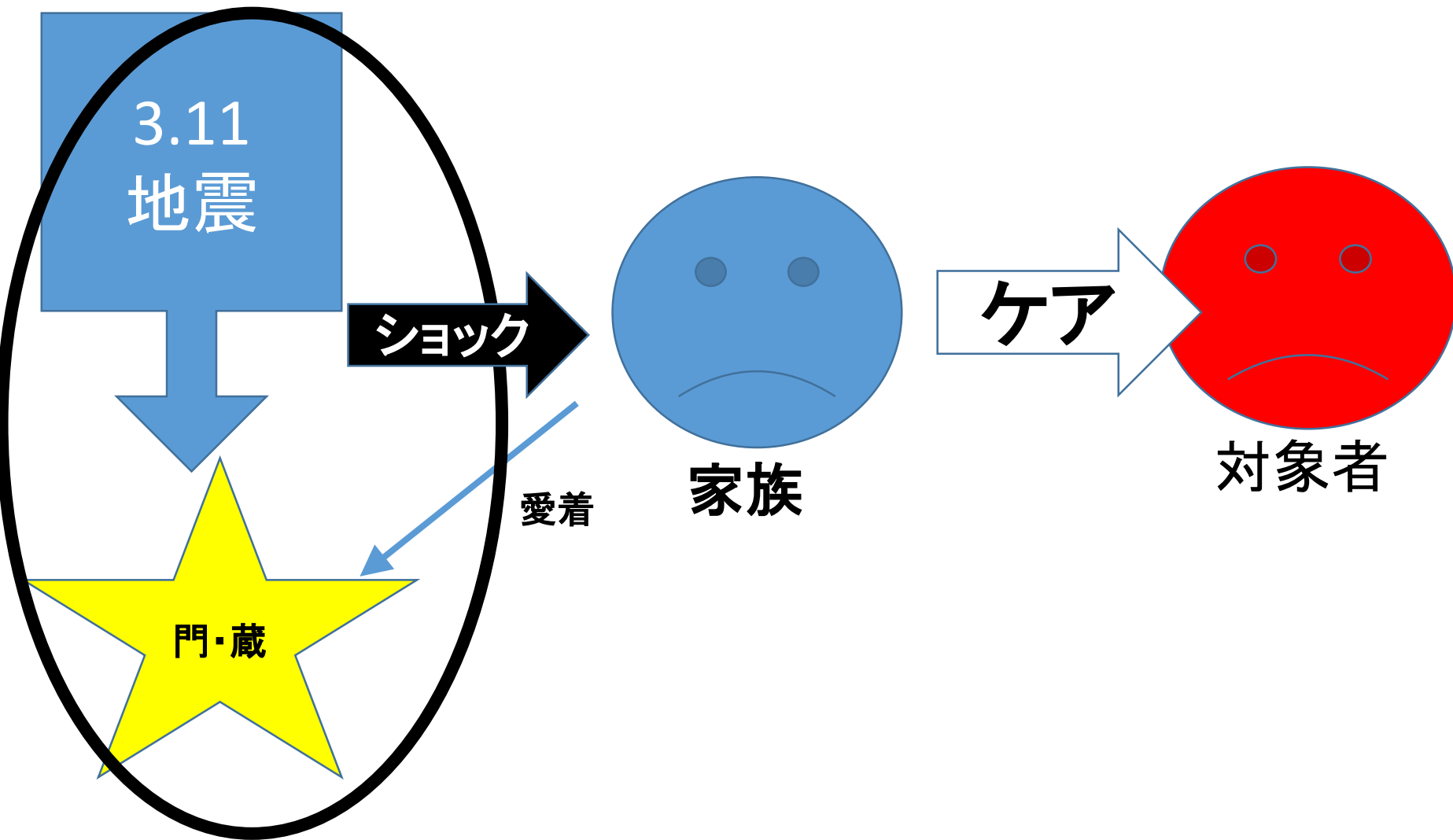
草むしり



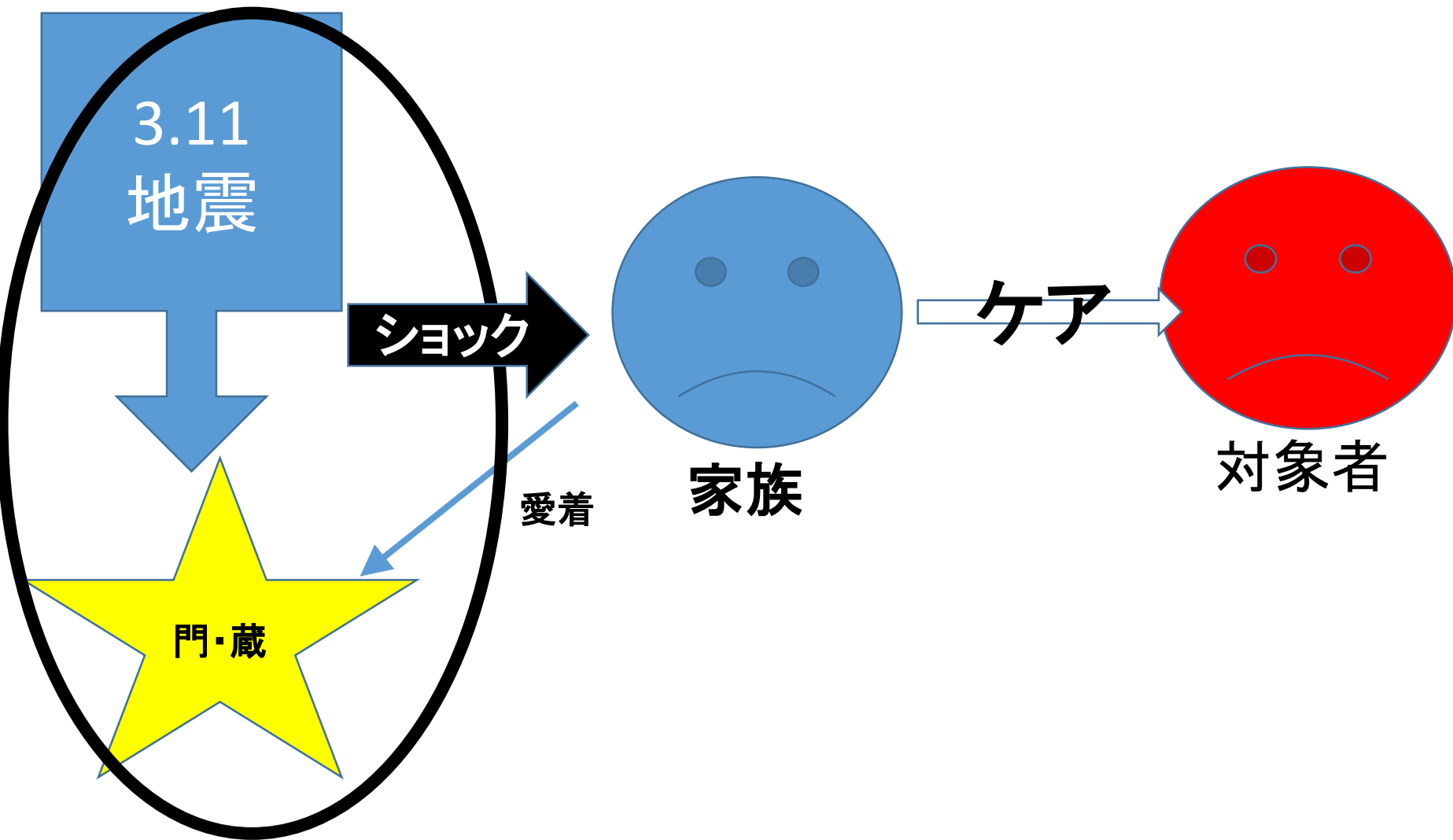
草むしり



草むしり



草むしり



草むしり-実際の支援-



草むしり-実際の支援-

何のため？



草むしり-実際の支援-

何のため？

草むしり自体が目的ではない



草むしり-実際の支援-

家族「(対象者が)きれいな庭を見て元気になってくれれば」
「昔の生活に戻りたい」
⇒ 戻りたい＝家族自身のもつ“意欲”

草むしり-実際の支援-

家族「(対象者が)きれいな庭を見て元気になってくれれば」
「昔の生活に戻りたい」
⇒ 戻りたい＝家族自身のもつ“意欲”

“意欲”を形にする

草むしり-実際の支援-

家族「(対象者が)きれいな庭を見て元気になってくれれば」
「昔の生活に戻りたい」
⇒ 戻りたい＝家族自身のもつ“意欲”

“意欲”を形にする

とりあえずは

家族だけでも草むしりを行えるレベルにまで手伝う

草むしり-実際の支援-

家族「(対象者が)きれいな庭を見て元気になってくれれば」
「昔の生活に戻りたい」
⇒ 戻りたい＝家族自身のもつ“意欲”

“意欲”を形にする

とりあえずは

家族だけでも草むしりを行えるレベルにまで手伝う

本当の目的は

家族が、**対象者の支援に前向きになってくれるように**

訪問支援を通じて

- 意志の尊重
- 震災の爪痕はまだ残っている
- 継続性



イントロ

池田

被災地での活動

小林

九州での活動

高張

まとめ

松隈

九州での活動

看護1年 高張謙介

活動内容

- 東日本大震災被災者支援ふくおか市民ネットワーク(以下市民ネット)
 - 民間の団体
 - 対象は広域避難者
 - 情報支援
 - 避難を推奨している団体ではない

The logo is a green square containing a white pixelated circular border. Inside the circle, the text "被災者支援ふくおか" is on the top line and "市民ネットワーク" is on the bottom line, both in white.

被災者支援ふくおか
市民ネットワーク

ママズカフェ

月1

避難者同士の交流の場

生活情報の提供の場

実際の活動

- 9/21,10/19,11/4にママズカフェに参加

覗いてみよう



託児



その一方で

何気ない会話

悩みの相談



その一方で

悩みの相談

何気ない会話



ママさんが子供と離れて、
自分の時間を作る

驚いたことがありました



驚いたことがありました



ママズカフェの参加者は自主避難者がほとんど

自主避難者とは



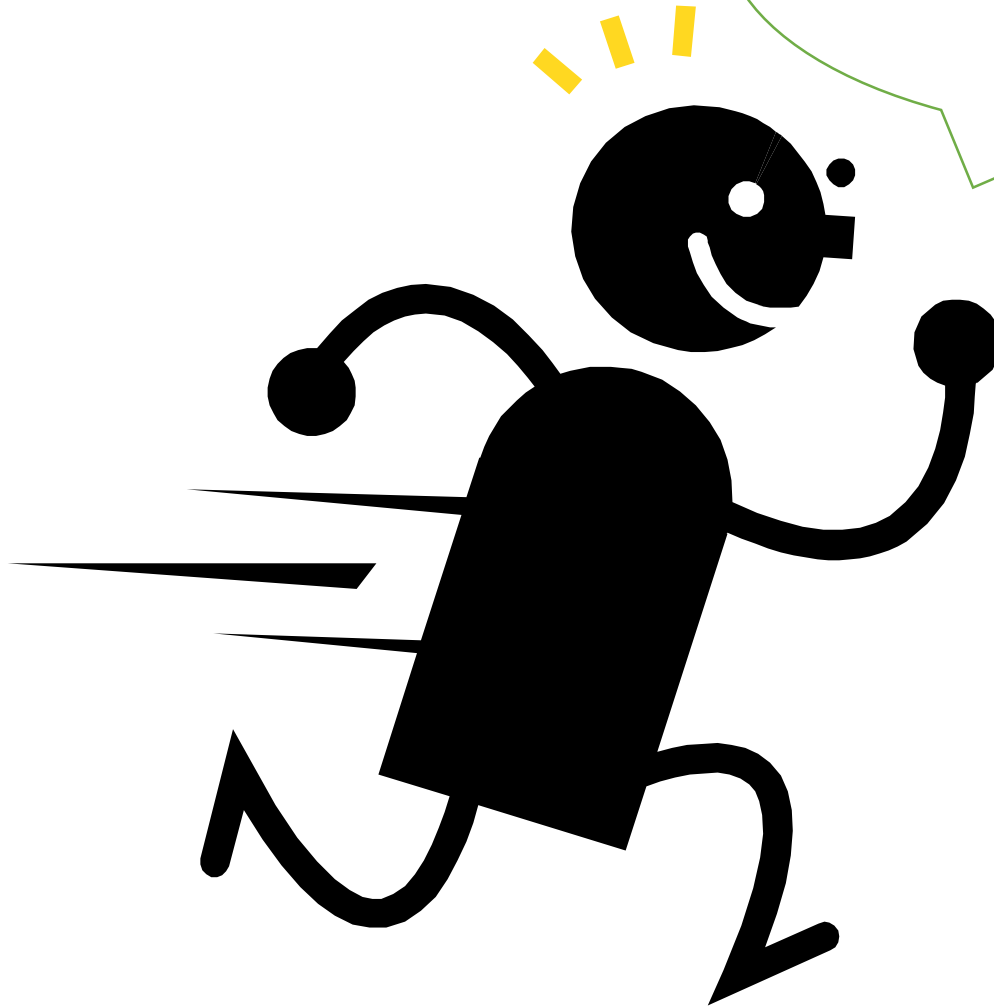
ふたつの避難者の違い

- <福岡市> 次の被災された方が対象です。
 - ※ ①②③以外で自主的に避難された方は対象となりません。
- 東日本大震災によって、現に居住が困難となった方
 - ① 住宅が全壊又は半壊等の損害を受けた方
 - ② 「警戒区域」及び「計画的避難区域」、「緊急時避難準備区域」に現に居住もしくは、事故発生時に居住していた方
 - ③ 「特定避難勧奨地点」として特定された住居に、現に居住もしくは、事故発生時に居住していた方

自主避難者

- 一般的な特徴
 - 放射能への不安
 - ほとんど引っ越しと同じ
- ママズカフェでは
 - 関東からの母子避難者が多い

ママさんに話を
聞きたい



聞いていいことなのか



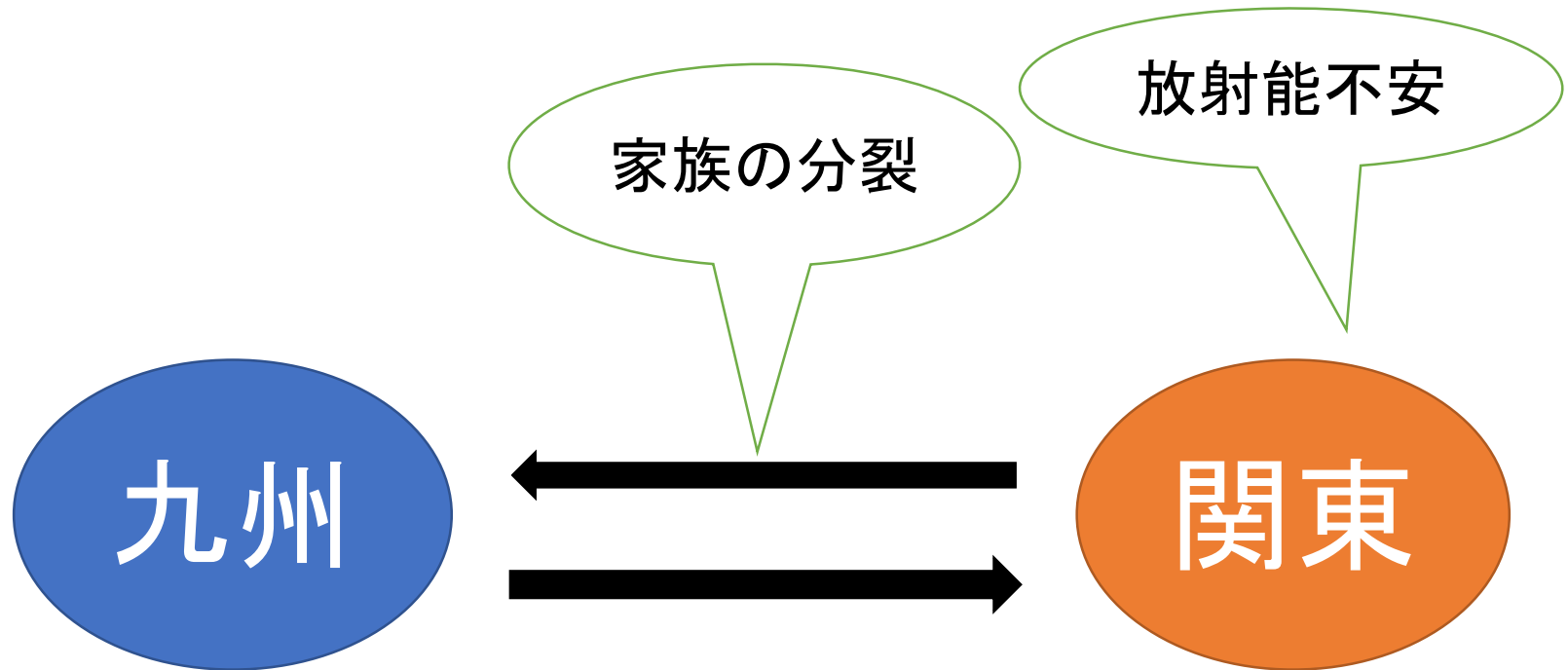
代表の飯田さんにインタビュー



わかったこと

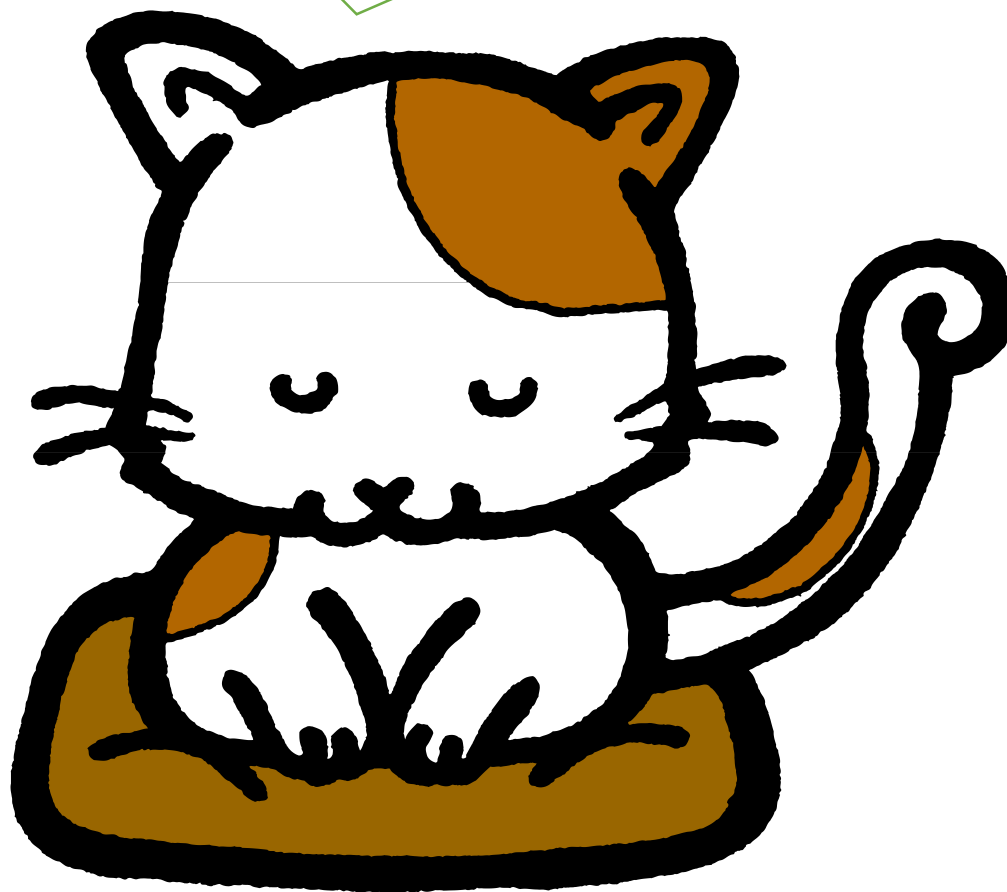
- 自主避難者(特に母子避難者)の絶対数は多い
- 様々な自主母子避難者の問題がある

自主母子避難者の問題



生活苦: 1. 金銭的な問題 (二重生活、雇用の問題)
2. 対人関係 (旦那さんとの問題、放射能に関して話せない)

支援の方法について考えてみました



シェアハウス

ママさんの問題に
対するアプローチ

デメリット

- ・プライバシーの問題
- ・生活リズムが違う



メリット

- ・金銭面→少し楽になる
- ・対人関係→悩みを共有できる
- ・子供が寂しさを感じない

自主避難者とは



ひとり親家庭まるごと支援する

デメリット

- ・どの年齢まで対応しないといけないかはっきりしていない
- ・そもそもそんなお金があるのか

メリット

- ・母子避難者かどうかに関わりなく支援できる
- ・そもそもの日本の問題にアプローチできる



支援上の問題に
対するアプローチ

- みなさんも支援の方法を考えてみてください！



イントロ

池田

被災地での活動

小林

九州での活動

高張

まとめ

松隈

まとめ

松隈 倫子



まだ

ここにも

「まだ」

- 草むしりを通じて・・・

2年以上経っても無力感が続いている

- 現実と支援体制のギャップ

寄付金が3年をめどに終わりになる

どうやって自立していくか？



「ここにも」

●被災地外にも震災の被害者はいる

福岡県内に避難

被災者(罹災証明有)

自主避難者(罹災証明無)



自主避難者には行政からの支援なし



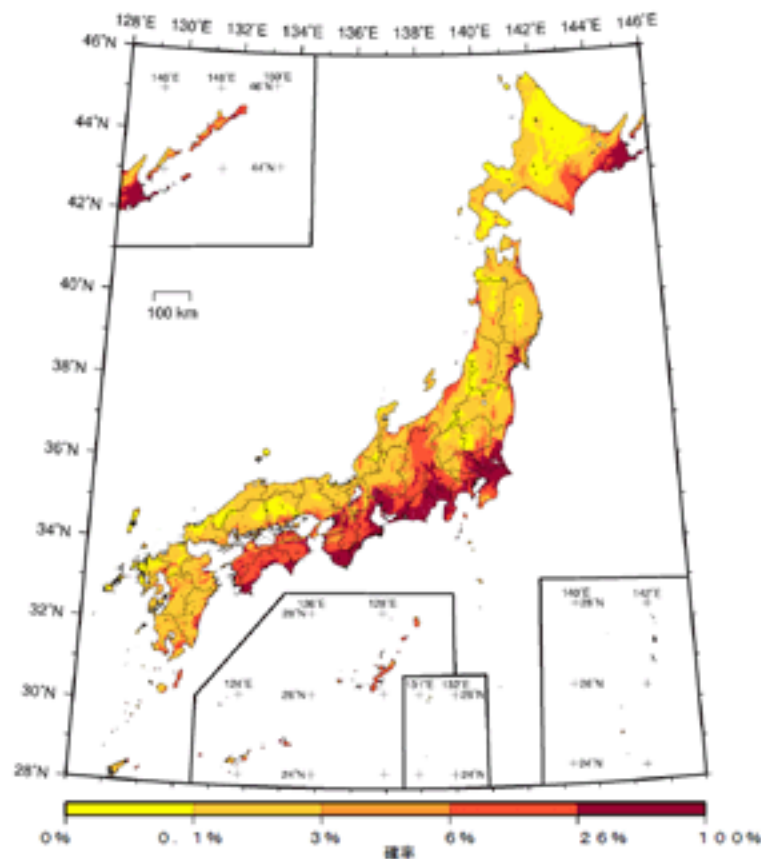
- 震災当時・・・見ようとしなくても目に入ってくる
- 現在・・・見ようとしなければ見えない



「このままなかったことにされるのでは・・・」

確率論的地震動予測地図

2012年から30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布



地震調査研究推進本部

main/p_hyoka04.htm

活動前

「震災から2年以上経過しているから、もう必要とされないのでは・・・」

「1年生が多く、大した医学的知識もないから心のケア活動に参加したところで役に立たないかもしれない」



活動してみて

- 被災地では
福岡から来たというだけで歓迎された
被災者が自分から震災体験や自分の思い
を語ってくださった
→被災地には、震災を体験しなかった人や
日本の未来を担う若者に伝えたいことを
持っている人がいる！

活動してみて

- 被災地外では
子ども達の遊び相手になる
→ 自主避難のママさんに対して
 〈1人になれる時間〉
 〈悩みや不安を吐露できる場所〉
を提供するだけで助けになる！

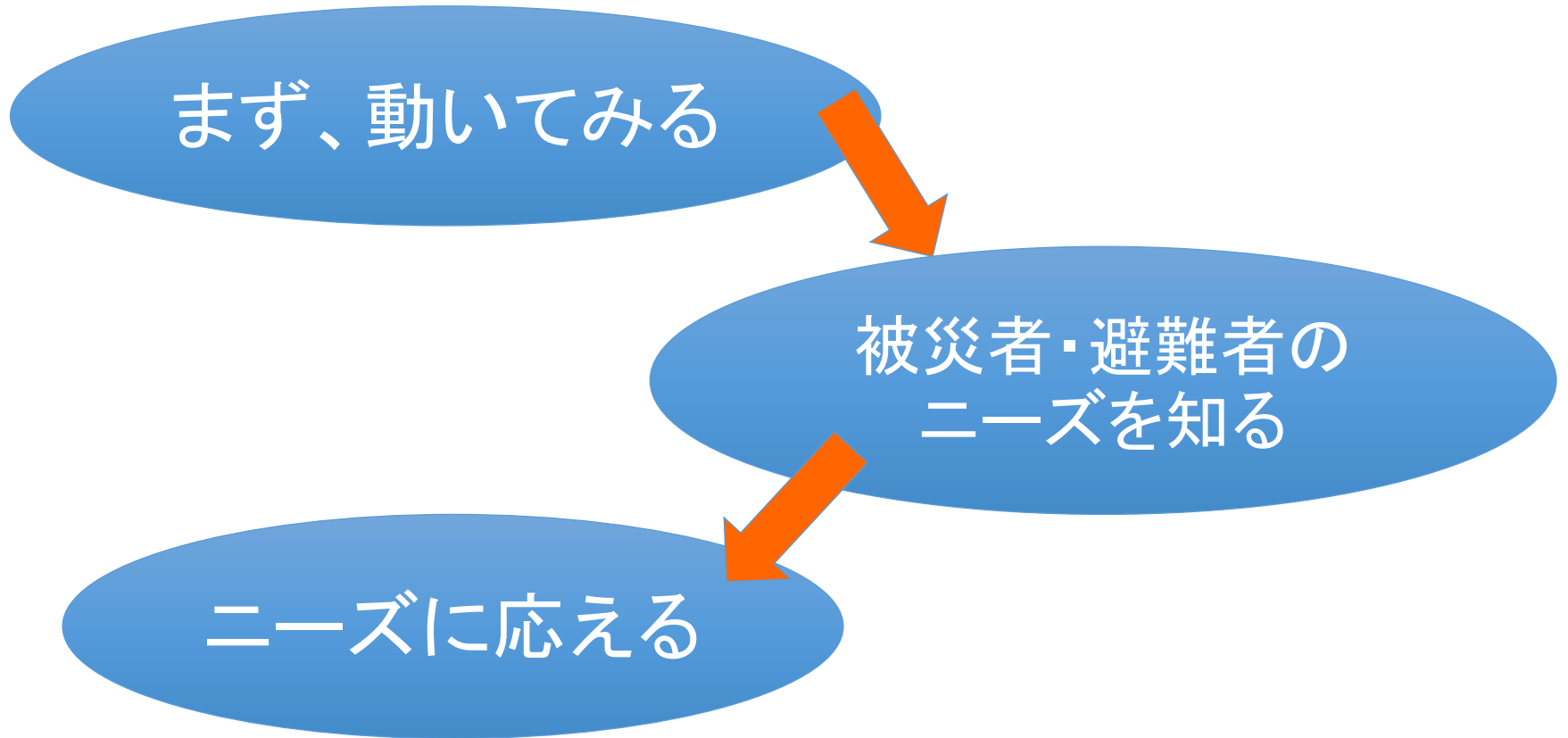
これから

- ・震災から経過した時間、その人がいる場所によって必要としているものが変化

まず、動いてみる

被災者・避難者の
ニーズを知る

ニーズに応える



ご静聴ありがとうございました

